

前文

一 地域自治・地域社会

【現状・課題】

人口減少と少子高齢化の進行により、中山間地などにおいて、地域の行事やコミュニティの維持が困難になっている。買物、通学・通院など地域公共交通も課題である。

これらは、人口増加や多人口を前提とした制度・システムが、人口減少した中山間地など地域の実態に合わなくなっていることに原因すると思われる。

【対策】

1. 持続可能な地域社会づくり(地域コミュニティの再構築)

～地域自治区の進化～

今まで地域は、例えば公共交通、郵便、宅配、新聞配達、買い物などそれぞれで、タテ割りの分断されたしくみ・制度で営まれていた。しかしこのしくみでフルスペックでそのまま存続させることは不可能で、制度・システムを見直す必要がある。

新しいしくみでは、一次生活圏を大事にして、新たな結節機能を持つ「地域の拠点」(コンパクトタウン)と新しいネットワーク(例えば、交通、郵便、宅配、新聞配達、買い物などで合わせ技ができないか検討)が必要であろう。これらは地域の全体のしくみを考え運営する地域運営組織(または経営体にまでなれば地域運営会社)が、住民の参加、自治の精神で動かしていく。このような地域コミュニティの再構築が必要であろう。

① まず、地域の課題やビジョンを考え、将来の見通しを共有したりすべきであろう。

そして、地域のお金の流れや資産を棚卸しし、暮らしと定住を支える経済活動や拠点整備を協議し、地域運営組織や地域運営会社を設け、地域で暮らしていける「地域の核」(中心地区＝コンパクトタウン、「小さな拠点」)を作る。ここで、地域の生活の大部分が賄える物資買い物や情報授受さらには相談・協力体制、小さな食堂、産直市まで揃う地域コミュニティ基地を作りたい。

そして、「地域の核」と地域運営組織(地域運営会社)を中心に、地域内交通の利便性を検討し、地域外交通との接続をスムーズにする。働く場を作ったり、外から人を引き入れたり(旅行、観光)、交流の場にしたり、空き家活用情報交換、移住相談をしたりできる。その地域を最も知る人が相談に乗れる。

② これらの活動は、地域の自主性が基本である。

但し、多くの段階で行政側のサポートが重要である。担当職員や専門家のサポート、地域おこし協力隊・集落支援員等の人材配置、住民側の先進地視察などなどである。当市には、総合事務所に少なからぬ職員が配置されており、大いに活かすべきである。

これにより、地域住民と市との「協働」により、「地域自治区の進化(地元から創り直す自治力)」を図り、持続可能な地域社会を実現することができる。

③ 最も重要なのは地域に暮らす住民のマインド、誇りと愛着と地域アイデンティティ

であり、それを基盤にした地域コミュニティづくりにあると感じる。ソフト・ハード両面からの地域のまちづくりは、これまで当委員会が学習してきたシビックプライドと地域を支えるまちづくりに通じる。

二 女性活躍・若者活躍社会

【現状・課題】

当市の人口減少の加速化は、もはや危機的状況が予測される。とりわけ若年女性の流出が顕著であり早急な対策が必要である。また、若者や女性の意見を聞いたり、活躍の場づくりが必要である。社会のあり様が問われていると考える。上記1の地域運営組織で話合ったり、活動参加してもらうことも重要である。

【対策】

1. 女性活躍・若者活躍社会づくり

(1) ジェンダー・ギャップの解消

当市における若年女性の大幅な流出の原因分析が必要であろう。他市の例ではジェンダーギャップがあると分析した例がある。当市でも当てはまるのではないか。

- ① 社会、家庭、教育におけるジェンダーバイアスの撤廃・解消への啓発活動を進める。
- ② 男女ともに育児や介護などのケアと仕事を両立できる環境が必要であることの啓発活動を強める。
- ③ 行政と経済団体、労働組合等が協力して、女性が働きたい仕事や職場環境の変革について、課題や解決方法を共有したり、行政で政策化することを検討する。

(2) 女性活躍

- ① 女性会議 当議会では、女性フォーラムを成功させた実績がある。女性会議を数年ごとに開催し、官民で女性活躍の障害を正し、社会の女性活躍の気運をはかる。
- ② 女性活躍の拠点整備
女性が憧れとする女性起業家を講師に招き、リスキリングできる職業訓練やジョブマッチング、またそのスキルを活かせる業種に繋いだり、起業も含めてチャレンジできる場を整備する。金融機関との繋ぎ、起業場所の提供、女性が働きやすくまた女性がお客としても来やすいオシャレな空間施設を準備し、チャンスがえられるようにすることが望まれる。
- ③ 女性の起業支援、就職支援、復職支援、DXなど技術支援が必要である。
「女性活躍」の視点での支援体制が必要で、外部専門家の力を活かすべきである。
- ④ ロールモデルの発信
「個」として輝けるロールモデルを見せることは重要である。

(3) 若者活躍

こども若者の意見発表や活躍の場をつくる

- ① 子ども若者会議(ユースカウンスル)の導入

こどもや若者が自由に意見を出せる場を行政主導でつくり、協働で政策に繁栄する。例えば、高校生を対象に意見を聞く会を設け、上越市の「シビックプライド」を若者目線で作成する。

当市の未来を担う小中学生の声を聞いて、上越市の魅力を醸成する。

②中高生の居場所(ユースセンター)の開設

学校、塾、部活といった同世代と指導者・教師の関係以外の第三の居場所で、様々な年齢の若者や地域の様々な職種の大人がフラットに関わる。

③地域の核や地域運営組織でこども・若者の意見発表や活躍の場をつくる。

三 こども真ん中社会

【現状・課題】

上越市は子育てしやすい市である、との声をととき聞き。しかし、もっと子育てしやすい市町も多く、当市の若者特に若年女性の流出は、今後さらに厳しい状況が予測される。更なる子育て支援の強化充実が必要である。

【対策】

1. 子育て支援の強化でこども真ん中社会づくり

当市では、現金給付型の子育て支援策には、財源など課題がいくつかある。

下記の現物給付型の支援策などの更なる充実が必要であろう。順次充実させ、子育て世代の支持を得て、子育て世代の流出抑制を果たしたい。

- ①高校3年までの医療費の所得制限なく無料化
- ②保育料を二人目から兄弟の年齢関係なく所得制限なく無料化
- ③中学校給食費を所得制限なく無料化
- ④オムツ宅配
- ⑤幼稚園給食実施
- ⑥奨学金制度の充実